

2020年度新入学生へ 「歓迎の言葉」



桜の花が咲く頃となり、新潟にも春が訪れて参りました。事業創造大学院大学へのご入学おめでとうございます。

本日、本科生 76 名という多くの大学院生をお迎えすることができました。日本人 30 名、留学生 46 名です。その他に日本人 11 名の科目等履修生がおります。留学生の国籍別には、中国から 32 名、ベトナムから 7 名、カンボジアから 3 名、モンゴルから 2 名、インドネシアから 1 名、ミャンマーから 1 名です。科目等履修生を含めると、合計で 87 名となります。

皆さんの大学院へのご入学に、大学を代表して、心から歓迎いたします。これから、皆さんは大学院生です。私達も全面的に応援させていただきます。

ご存じのように、現在新型コロナウイルス (COVID-19) の感染拡大に伴って、日本では沢山の人が一堂に会することを避け感染の拡大を少しでも減らそうとしています。そのため、本学でも一堂に会することを避け、誠に残念ですが入学式を中止して、入学式での「学長式辞」を、私から皆さんへの「歓迎の言葉」として、文章でお渡しすることにいたしました。皆さんは入学式を楽しみにされていたと思いますが、この特殊な事情をご理解いただきたいと思います。

特に、留学生の皆さんに、一言申し上げます。母国を離れての生活ですので、健康に特に注意して生活してください。日本は四季 (四つの季節) すなわち春、夏、秋、冬がはっきりしています。春には花が咲き、夏は暑く、秋には紅葉、冬は寒く雪も降ります。季節によって気温も変わり、衣服も変えなければならぬので面倒な時もありますが、慣れるとむしろ変化を楽しむ気持ちになれます。沢山の日本人の友人、知人をつくり、将来、母国と日本との懸け橋になってください。

さて、本大学院大学は、2006 年 4 月に開学し、今年で 14 年目を迎えています。直面する課題を広く認識するとともに、来たるべき時代の潮流を把握しつつ創造的な経済・産業活動に取り組む人材の育成、すなわち日本経済だけでなく、グローバル経済の相互発展に貢献する事業や企業を独立して、または組織内で創造し、経営する人材を育成することを目的として設立されました。本学はそのために、「研究に基づいた実践、実践に基づいた研究」を理念に掲げ、事業を創

造し発展させるにふさわしい高い能力と見識と専門性を備えた人材育成を目指しています。

ここで、皆さんの入学に際して、三つのことを述べさせていただき、お祝いの言葉としたいと思います。

まず一つ目です。

本大学院大学では教育の質の保証が担保できるように教育環境が整えられています。授業科目は、基礎科目と発展科目、演習科目に分類され、基礎科目は、学問として体系化されたいわゆる、短期間では変わらない普遍性の部分を内容として、最重要視し、演習を伴いながら基礎から発展へと進むようになっていきます。一方で、具体的な実践も学ぶことが事業創造の能力を高めるには必須です。本学では、第一線の経営者の方々にも客員教授、非常勤教員として加わっていただき、そこから実際の具体性を持った体験を学ぶことができます。ご存知のように、現在、科学技術の発展とともに、世界は、社会、経済などが、大きく変わろうとしています。このようなときに、さまざまな事業を創造して実践していくことが、地域、日本そして世界の社会に変化をもたらし、活性化を生み、現在抱えている困難に立ち向かうこととなります。新規事業を創出していくには、専門的知識に加えて、精神力、行動力、コミュニケーション能力、論理的思考力、抽象化能力なども必要で、これらの能力も養成する必要があります。最近の研究で、困難な課題に取り組むためには多様性のあるチームの存在が重要ということが分かってきました。多様性のあるチームとは、国籍、人種、年齢、性別、専門などが異なるさまざまな人々から構成され、ある目的のために協力して行動するグループです。この多様性ある人材の活用をダイバーシティと呼んでいます。本学はこのダイバーシティの環境を有しており、教育環境として大変充実していると思います。そうした多様な人々が対等に関わりあいながら一体化している状態をインクルージョンと言います。チーム内のそれぞれの人々の特有の経験、スキルや考え方が認められ、活用される状態のことです。本大学院大学で、この経験もされることと思いますが、是非この本大学院大学の有するダイバーシティとインクルージョンの環境を有効に活用し、学習して頂きたいということです。

これを、まず、一つ目として申し上げておきたいと思います。

次に、二つ目です。

現在直面している新型コロナウイルスへの対応についてです。新型コロナウイルスの感染が、世界中に拡大しつつあります。この新型コロナウイルスの治療薬や予防用のワクチンは、未だ開発されていません。そのため、感染の拡大を出来るだけ抑えることが必要です。この感染の多くは、現時点では飛沫感染（ひまつかんせん）と接触感染と言われています。飛沫感染は感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つば など）と一緒にウイルスが放出され、他者がそのウイルスを口

や鼻から吸い込んで感染することです。一方、接触感染は感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、自らの手で周りの物に触れると感染者のウイルスが付き、未感染者がその部分に接触すると感染者のウイルスが未感染者の手に付着し、その手で自分の口や鼻に触れて感染に至るものです。その為、外出後はうがい、手洗いや消毒を行い、できるだけ人込みの多い場所には行かない事が重要です。今までの事例の多くから、新型コロナウイルス感染者は、周囲の人にほとんど感染させていないものの、一人の感染者から多くの人に感染が拡大したと疑われる事例が存在します。一人の感染者が生み出す二次感染による集団感染には、確認された場所に共通する①換気の悪い密閉空間、②人が密集している、③近距离での会話や発声が行われる、という3つの条件が同時に重なった場所ということが分かってきました。皆さんは、このような場所に行かないようにして下さい。

皆さんは4月から、本学の大学院生となりますが、このような状況から講義室、演習室などに集まる大学院の授業の開始を感染拡大がある程度収まるまで、少し遅らせることにいたしました。ただし、大学の講義室に集まって行う授業の開始は遅らせますが、インターネットを使って大学のオリエンテーション、質疑応答などを皆さんが自宅やアパートで出来ることは、開始いたします。

新型コロナウイルスの感染拡大は、アジアから、ヨーロッパ、アメリカ、更にアフリカに拡大しつつあります。報道されているように、イタリアでは感染者数、死亡者も急増していますが、2020年2月25日、イタリアのミラノのアレッサンドロ・ボルタ高校のドメニコ・スクイラーチェ校長が、休校になった生徒たちへのメッセージを同校のネット掲示板に掲載し、その優れたメッセージがニュースとして報道されました。17世期のミラノを襲ったペスト感染の状況を語るマンゾーニの小説を参考に、感染させた者を見つけ出し非難したり、デマに翻弄されるなど、集団パニックの状況を紹介して、高校生にこのような状況時の過ごし方を説いたものです。校長先生は、学生に冷静な日常生活を送ること、このような機会を利用して、良質な本を読むことを勧めています。

私が、このボルタ高校のニュースに注目したのは理由があります。ご存知のように、私の専門はIT(情報技術)です。IT関係の装置は全て電気で動いていますが、その電気を供給する電池を発明した人物はイタリアのミラノの北に位置するコモ湖付近で生まれたアレッサンドロ・ボルタです。現在、電気の電圧の単位のボルトはこの人物の名前に因んでつけられたものです。私は2006年に、ミラノから、ボルタの故郷のコモ湖を訪れて、電池発明時のボルタの実験器具を見て、大変感激した思い出があります。そのため、ボルタ高校のニュースに注目せざるを得なかった次第です。

ボルタ高校の校長先生と同様に、私なりに、皆さんにお伝えしたいことは、うがい・手洗いを励行し、不要不急な外出や人込みに行くことは控え、冷静な日常生活を送ること、そして、この機会に自宅やアパートで読書をしましょうということです。皆さんの得意とする専門(バックグラウンド)は、文系、理系など様々です。新型コロナウイルス感染拡大で、一定期間あるいは一時的には国家間の交通手段など人の移動が抑えられるかも知れませんが、インターネットなどの技術進歩は抑えることはできません。文系が専門の方は、ICT(情報通

信技術)、ブロックチェーン、IoT (モノのインターネット)、AI (人工知能)、ロボットなどの理系の本を、理系が専門の方は、文学書、歴史書などを重点的に読まれたら如何でしょうか。そして、このような時代変化、世界的な病気感染収束の後に、どのような経済、社会が開けるのか自分で推測してみたら如何でしょうか。

最後に三つ目です。

日本の大学、大学院では、昔から次の様なことが言われています。

「大学の教員は、太鼓と同じだ。強く叩くと大きな音が出て、弱く叩くと小さな音しか出さない。」

入学された学生さんは、徹底的に学習して、是非先生方に向かって、強く叩いて下さい。そうすると大きく反応してくれます。

以上、まとめますと、

(1) ダイバーシティ、インクルージョンの環境を有効に活用し、学習してください。

(2) 新型コロナウイルスの感染に対して、うがい・手洗いを励行し、不要不急な外出や人込みに行くことは控え、冷静な日常生活を送ること、そして、この機会に自宅やアパートで読書をしましょう。文系が専門の方は ICT (情報通信技術)、ブロックチェーン、IoT (モノのインターネット)、AI (人工知能)、ロボットなどの理系の本を、理系が専門の方は文学書、歴史書などを重点的に読まれることをお勧めします。

(3) 大学の教員へ向けて、積極的に働きかける姿勢を保つことを忘れないでください。

以上、これら三つを参考に、皆さんが健康に留意しつつ、有意義な大学院生活を送られることを祈り、歓迎の言葉と致します。

2020年4月9日

事業創造大学院大学 学長
仙石正和

